

すべての母子の健康のために 助産師の活動を支援します。

株式会社GIFTは、子どもが欲しい女性が自然に妊娠できて、赤ちゃんが無事に生まれ、子どもが元気に育つ社会を実現するため、助産師の技術向上を支援し、助産師と共に地域の子育て広場を運営しています。

GIFTの講座で学んでみませんか？

助産師さん
必見

技術・知識講座

のご案内 **2023年10月スタート!**

毎月、助産に役立つ講座動画を配信します。

受講料

1ヶ月 **2,000円** (消費税込)

配信内容

2023年10月から2024年1月まで、
毎月5本の講座動画を配信予定 ※配信内容は裏面参照

講座内容は、1テーマ4回(4ヶ月)で完結するよう構成しています。
毎月の受講をお勧めします! ※アーカイブ販売は今後導入予定

受講方法

講座の視聴には会員登録が必要となりますので
まずは公式サイトから会員登録をお願いします。

※昨年登録された方もあらためて登録をお願いします。

配信予定

2023年/10月号<10月27日>、11月号<11月27日>、12月号<12月27日>
2024年/1月号<1月27日>



会員登録はこちらから

病院など施設単位でのお申し込みも受け付けています

受講料

1施設につき5人単位 **8,000円** (消費税込)

申込方法

メールで以下の内容をお送りください。

●施設名 ●住所 ●電話番号 ●担当者名と役職 ●メールアドレス
●登録電話番号(5人まで)

お申込みメールアドレス: contact@giftcorp.jp

これまでさまざまな
仕事を通じて
助産師さんに出会う機会があり、
もっと学びたいがチャンスがない
という声を多く耳にしました。
自分が積み重ねてきた経験と
ネットワークをさらに広げ、
目指す社会の実現のためにも
助産師さんを支援していきたいと
考えています。



代表
わかつき あけみ
若月 朱美

1984年から現在まで一貫してベンチャー企業の経営に携わる。2016年北海道大学COIプロジェクトに特定専門職員として参画し、主に母子健康調査のコーディネイトを担当する。2021年5月、株式会社GIFTを創業。現在に至る。

お問い合わせ / 株式会社GIFT ギフト

- 本社 / 〒068-0023 北海道岩見沢市3条西3丁目2番地5 佐々木ビル1F
TEL 0126-35-1523 / FAX 050-3737-1320
- 東京事務所 / 〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-23-1 ニューステイトメナー746号室
TEL 03-4405-1713
mail contact@giftcorp.jp

助産師さん
必見

技術・知識講座 のご案内 2023年10月スタート!

2023年10月から2024年1月までの4ヶ月間、
5つのテーマを毎月取り上げます。

※次回は、2024年2月より新しいテーマで配信する予定です。



会員登録は
こちらから

受講料	1ヶ月 2,000円 (消費税別)
配信内容	2023年10月から2024年1月まで、 毎月5本の講座動画を配信予定 講座内容は、1テーマ4回(4ヶ月)で完結するよう構成しています。 毎月の受講をお勧めします! ※アーカイブ販売は今後導入予定
受講方法	講座の視聴には会員登録が必要となりますので まずは公式サイトから会員登録をお願いします。 ※昨年登録された方もあらためて登録をお願いします。
配信予定	2023年/10月号<10月27日>、11月号<11月27日> 12月号<12月27日> 2024年/1月号<1月27日>

助産師がぜひ知っておきたい、 妊婦の症状アセスメント (全4回)



講師: **蝦名 康彦** 医師

北海道大学大学院 保健科学研究院 創成看護学分野 教授

妊婦さんが日常の些細なトラブルに遭遇したり、何らかの症状が出現したとき、まずは電話でかかりつけ医院の助産師に相談することでしょう。その症状からどのような異常や疾患の可能性が考えられるのか、そして何を確認して緊急性や重症度などを判断するのでしょうか? このような場面でのコミュニケーションを安全かつ円滑に進めるために必要な考え方を、全4回にわたり、症状別に解説していきます。なお本講座は、本年8月に刊行された産婦人科診療ガイドライン産科編2023に準拠した内容となっています。まず第1回目は、性器出血を取り上げます。※来月以降、発熱、腹痛など順次取り上げる予定です。

PROFILE 1990年北海道大学医学部卒業、2000年北海道大学病院産婦人科助手、2010年神戸大学産婦人科講師、2012年同 准教授を経て、2020年より現職。助産師養成コースや大学院・学部の教育を担当しながら、研究と臨床を続けている。資格:産婦人科専門医・指導医、J-MELSベリックコース・インストラクターなど。

日本の産科医療の現状と課題 (全4回)



講師: **勝村 久司** 氏

産科医療補償制度 再発防止委員会 委員

妊婦とその家族と医療従事者にとって安全で納得できるお産環境の実現のために、助産師のみならずにお伝えしたい日本の産科医療の現状と課題についてお話しします。数々のお産がある中で、さまざまな事故が起こります。中には全国の周産期医療に携わる専門職の方に周知したい事実が多くあります。そこで、日本の出産の現況から、産科医療補償制度が設立された背景や、産科医療補償制度で報告している事例や提言についてお伝えします。来月以降は産科医療補償制度の再発防止委員会の取り組みと、子宮収縮薬や早期母子接触の事故について取り上げる予定です。

PROFILE 1990年、陣痛促進剤(子宮収縮薬)の使用で長女を失ったことによる医療裁判を機に、医療事故や薬害などの市民運動に取り組み。厚生労働省「医療安全対策検討ワーキンググループ」「中央社会保険医療協議会」、群馬大学病院「医療事故調査委員会」などの委員を歴任。現在、厚生労働省「薬害を学び再発を防止するための教育に関する検討会」や産科医療補償制度「運営委員会」などの委員。

胎児心拍数陣痛図(CTG)の読み方 (全4回)



講師: **箕浦 茂樹** 医師

新宿区医師会区民健康センター 所長・
国立国際医療研究センター 産婦人科

分娩を正常に導くために大切な胎児心拍数陣痛図(CTG)。分娩経過中徐々に変化するのが多い中、急に異常な経過をとることもあり、それらをいち早く察知する能力を身につけることも重要です。それぞれの心拍数波形は胎児のどんな状態を反映しているのか、変化する心拍数波形のどこまでが許容範囲か等につき、読み方の基礎から異常の見方まで、実例を交えながらお話しします。

PROFILE 1973年 東京大学医学部医学科卒業。1979年愛育病院産婦人科医長、1986年国立病院医療センター産婦人科医長、2010年独立行政法人国立国際医療研究センター病院中央検査部長、産婦人科科長、山王病院婦人科部長、国際医療福祉大学教授を歴任。現在、一般社団法人新宿区医師会区民健康センター所長。

助産師に期待される 女性の栄養管理 -DOHaD学説の 視点から-



講師: **福岡 秀興** 特任教授

福島県立医科大学特任教授・千葉大学客員教授・
日本DOHaD学会名誉理事長

近年、母体の栄養が胎児の将来の健康に関わることが研究され、世界で「DOHaD説(生活習慣病胎児期発症起源説)」として注目されています。DOHaD説は「胎児期に低栄養状態(あるいは過栄養)に曝露されたり、出生体重が小さく(あるいは大きく)なると、生活習慣病リスクが高くなる」という学説です。子どもが一生涯を健康に過ごすか、疾病リスクの高い人生を歩むかを大きく決定する重要な考え方です。私たち全てが、絶対知るべき学説と言えます。日本の低出生体重児の割合は主な先進国の中で著しく高く、女性の栄養摂取状態に大きな課題が唱えられています。第1回目はDOHaD学説の概要をお伝えします。今後、全4回を通して胎児の生育に必要な栄養素や低出生体重児のケアをお届けする予定です。

PROFILE 1973年 東京大学医学部医学科卒業。香川医科大学講師、東京大学大学院医学系研究科(発達科学)助教授、早稲田大学胎生期エビデンス生後研究所教授などを歴任。現在、福島県立医科大学特任教授・千葉大学客員教授、一般社団法人日本DOHaD学会名誉理事長を務めている。

周産期の妊婦ケアで 知っておきたい漢方の知識 (全4回)



講師: **森 瑛子** 医師

千葉大学医学部附属病院 和漢診療科・墨田漢方研究所

近年、東洋医学の魅力が再認識されています。なかでも漢方は、古代中国から伝来し日本の風土で育まれた、日本の伝統医療です。その根底にある東洋思想は、一見難しく感じられるかもしれませんが、実は現代の私たちの生活に根付いているものです。古くから人に対して実際に使用されてきた経験の蓄積が、漢方の最大の強みであり、魅力でもあります。妊娠中に飲んでも大丈夫というのは、不安を抱えた妊婦さんにとって大きな安心となります。そもそも「漢方とは?」から、妊娠中によく使われる漢方薬、さらには、妊活中や産褥期に役立つ漢方薬や鍼灸の知識を、この講座で分かりやすくお伝えします。

PROFILE 2008年日本大学医学部卒業。初期臨床研修を経て、2010年日本医科大学女性診療科産科入局。日本医科大学武蔵小杉病院、東京臨海病院、日本医科大学千葉北総病院で産婦人科の臨床に従事。2017年から北里大学東洋医学総合研究所(現 北里大学漢方鍼灸治療センター)で漢方と鍼灸を学び、2023年から現職。